



## シスコ レシーバの packets 開始

- [レシーバの packets 検出開始しきい値について \(1 ページ\)](#)
- [Rx SOP の制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [Rx SOP の設定 \(CLI\) \(2 ページ\)](#)
- [RF プロファイルのカスタマイズ \(CLI\) \(3 ページ\)](#)

### レシーバの packets 検出開始しきい値について

レシーバの packets 検出開始 (Rx SOP) しきい値機能は、アクセス ポイントの無線が packets を復調してデコードする dBm 単位の Wi-Fi 信号レベルを決定します。Wi-Fi レベルが上がると、無線の受信感度が下がり、レシーバのセル サイズが小さくなります。セル サイズの減少は、ネットワークのクライアントの分散に影響します。

RF リンクが脆弱なクライアント、つながりっぱなしのクライアント、およびアクセス ポイント全体で負荷分散しているクライアントに対処するために Rx SOP が使用されます。Rx SOP は、アクセス ポイントが最も近くにある最も強力なクライアントを最適化する必要のあるスタジアムやホールなどの高密度展開でネットワーク性能を最大限引き出すのに役立ちます。

### Rx SOP の制約事項

- Rx SOP 設定は Cisco Aironet シリーズ AP でプラグ着脱可能なサードパーティの無線モジュールには適用できません。
- Rx SOP 設定は、ローカル、FlexConnect、ブリッジ、および Flex + ブリッジモードでのみサポートされます。
- Rx SOP 設定は、FlexConnect + PPPoE、FlexConnect + PPPoE-wIPS、および FlexConnect + OEAP サブモードではサポートされていません。

次の表に、Rx SOP しきい値で許容される範囲を示します。

表 1: Rx SOP しきい値

無線帯域	しきい値高	しきい値中	しきい値低
2.4 GHz	-79 dBm	-82 dBm	-85 dBm
5 GHz	-76 dBm	-78 dBm	-80 dBm

## Rx SOP の設定 (CLI)

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： デバイス# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>ap dot11 {24ghz   5ghz} rx-sop threshold {auto   custom   high   low   medium}</b> 例： デバイス(config)# <code>ap dot11 5ghz rx-sop threshold high</code>	802.11bg/802.11a 無線 Rx SOP しきい値を設定します。
ステップ 3	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<b>show ap dot11 {24ghz   5ghz} high-density</b> 例： デバイス# <code>show ap dot11 5ghz high-density</code>	802.11bg/802.11a 高密度パラメータを表示します。
ステップ 5	<b>show ap summary</b> 例： デバイス# <code>show ap summary</code>	接続されたすべての Cisco AP のサマリーを表示します。

## RF プロファイルのカスタマイズ (CLI)

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例：  デバイス# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>ap dot11 {24ghz   5ghz} rf-profile profile-name</b> 例：  デバイス(config)# <b>ap dot11 24ghz rf-profile AHS_2.4ghz</b>	802.11a および 11b パラメータを設定します。
ステップ 3	<b>high-density rx-sop threshold {auto   custom   high   low   medium}</b> 例：  デバイス(config-rf-profile)# <b>high-density rx-sop threshold high</b>	802.11bg、802.11a 高密度パラメータを設定します。
ステップ 4	<b>show ap summary</b> 例：  デバイス# <b>show ap summary</b>	接続されたすべての Cisco AP のサマリーを表示します。
ステップ 5	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無線モードに関係なく、コントローラは設定された RX-SOP 値で無線を設定します。AP により、設定された RX-SOP 値の使用の有無が決まります。</li> <li>XOR 無線 (スロット 0) の場合、AP がモニターモードの場合、AP にプッシュされる RX-SOP 値は、モニターモードに移行する前に動作していた帯域に依存します (基本的に、無線動作帯域が 24g の場合、RX-SOP パラメータは 24GHz RF プロファイル (またはデフォルトの RF プロファイル) から選択されます)。5g の場合は、AP 用に設定された 5GHz RF プロファイル (またはデフォルトの RF プロファイル) から選択された RX-SOP パラメータです。</li> </ul>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。